

「かぞく」

末松 凜 (すえまつ りん) 5歳

中間中央幼稚園
(福岡教区)

●表紙のこたば●

スーツを着てネクタイを締めているのはお父さん、その右横には優しい表情のお母さん、そして、左には女の子と男の子が描かれています。女の子はこの絵を描いた凜さんでしょう。空は青く、^{さんさん}燦々と太陽が輝き、白い雲が浮かんでいます。雲と雲の間には、虹が架かっています。仕事に出かけていくお父さんを、家族みんなで見送ったことを思い出して描いたそうです。雨上がりの朝だったそうで、虹の架け橋はその様子を象徴しているのでしょうか。

幼児が絵を描くとき、色とりどりのクレヨンなどが用意されていると、使いたい色を選んで描くことが多く見られます。しかし、五〜六歳くらいになると、次々と思いつく浮かび、伝えたいと思う内容を一気に描こうとするようにもなります。たとえ単色で描いていても、しっかり色をイメージして描いているのです。さらに、絵の具やクレヨンが用意されていれば、必要に応じて自分で材料を選び彩色をしていきます。そんな凜さんの成長を感じさせる表現です。



おおはし いさお
大橋 功

岡山大学学術研究院
教育学域